

鹿児島市議会議員

さんたんぞの

三反園 輝男

議会報告

◆ 市民参加型 市政づくり ◆

市民連合会報

発行所 鹿児島市議会市民連合議員団
〒892-0816 鹿児島市山下町11番1号
TEL:FAX099-224-7353 内線4061・4062・4063
mail:shimin@kagoshimashigikai.com



令和6年第4回定例会終了

令和6年第4回市議会定例会は、12月3日から12月20日までの18日間にわたって開催されました。第3回定例会より継続審査となっていた決算関係議案15件を議決し、今回提案された17件のうち「第59号議案 鹿児島市一般貸切旅客自動車乗車料条例廃止の件」を否決、その他の議案16件を原案どおり可決・承認・同意して終了しました。わが会派からは片平孝市議員・合原ちひろ議員が市政全般にわたり個人質疑を交わしました。

一般会計を補正

令和6年度の一般会計の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ45億9,246万5千円を追加し、歳入歳出予算の総額を2,955億2,288万9千円としました。

鹿児島市犯罪被害者等支援条例を制定

犯罪被害者等の支援に関し、基本理念を定め、市、市民及び事業者の責務を明らかにするとともに、犯罪被害者等の支援の基本となる事項を定め、犯罪被害者等が受けた被害の軽減及び回復を図り、もって市民が安心して暮らすことができる地域社会を実現するために条例を制定しました。

パブリックコメントを

実施

1. 鹿児島市スケートボード等
専用施設基本構想(素案)

- 2. 「特定個人情報保護評価書」(全項目評価書)の素案
- 3. 鹿児島市こども計画素案
- 4. 鹿児島市乳児等通園支援事業の設備及び運営の基準に関する条例の素案

鹿児島市居住支援協議会を設立

単身世帯の増加や持ち家率の低下により、今後、高齢者等の民間賃貸住宅への入居ニーズが高まるが見込まれるが、大家等は、孤独死等の問題から入居を敬遠する傾向にあります。改正住宅セーフティネット法(国土交通省と厚生労働省の共管)において、地方公共団体は、高齢者等の民間賃貸住宅への円滑な入居等の支援について協議するための「居住支援協議会」の設立に努めなければならぬとされていることから、高齢者等に対するきめ細かなサービスにつなげるため、地域の不動産や福祉等の団体と連携した市居住支援協議会を令和7年1月に設立します。

第59号議案鹿児島市一般貸切旅客自動車乗車料条例廃止の議案を否決

本議案に反対するため、会派を代表して三反園輝男が討論を行いました。討論の原文は以下のとおりです。

今定例会に提案された、第59号議案鹿児島市一般貸切旅客自動車乗車料条例廃止の議案に対し、反対の立場から討論します。

本議案は鹿児島市交通局が昭和9年から取り組んできた貸切バス事業を廃止しようとするものであります。

わが会派は今会議の個人質疑において運転士不足の現状を問うたところ、必要人員103人に対し、実人員は93人で、10人の不足が生じることが明らかになりました。その不足分を確保するために、貸切バス事業の要員を充てるとのことでした。

そこで、政務調査課を通じて改めて、貸切バス事業の要員のうち、実質、路線バスに補充される人数を伺ったところ2名との

活動内容・相談窓口の設置、必要な支援に関する協議、入居相談から退去時までの支援
事務局・NPO法人やどかり
プッラス
住所・鹿児島市下荒田4丁目
30-5 403号
電話・099180014842

意見書

ことでした。交通事業経営審議会からの答申にある、市民の身近な交通手段である路線バスのサービス維持を優先させることを踏まえて、貸切バス事業を廃止する場合と、存続させて路線編成を行った場合、それぞれの路線や便数についての影響について回答を求めた結果、路線バスの便数が少なくなるのは間違いないが、現在、路線やダイヤの検討を行っているところであり、減便の数はお示しできないとのことでした。そのようなことから、今後編成される令和7年度のダイヤ改正をはじめ、運転士の新規採用、免許取得制度の導入など、運転士確保の状況を検証した上で、貸切バス事業廃止の判断をしても遅くないと考えるものであります。まさに、時期尚早と言わざるを得ません。以上のようなことから、今回の条例廃止には賛成しがたいのであります。併せて、今回の議案送付以降の議会意思を当局が把握し、市民福祉の向上を希求する、お互いを尊重し合う姿勢があったならば、柔軟な対応など別の手段も考えられたのではないかとすることも申し上げます。反対討論を終わります。

訪問介護の基本報酬引下げの早急な見直し等を求める意見書

主な個人質疑

問 地域における公共交通に関する懇話会の参加者の声は。

答 「あいばす」では目的地までの移動に時間がかかることや、バス停が遠いなどのご意見が多かったほか、ルートの見直しや、乗合タクシーの導入などを希望する声が寄せられました。

問 公共交通不便地における持続可能な交通に関する課題と今後の取組は。

答 公共交通不便地対策については、利用者のニーズや費用対効果など各方面から検討を行い、地域の実情に応じた持続可能な交通手段となるよう、調査検討を進めています。

今後におきましては、実証実験や利用状況調査等を踏まえながら、公共交通不便地全体の見直し方針の取りまとめに向け取り組んでいます。

問 コロナ禍後、収支が向上し投資の回収が見込まれるなか、一般貸切バス事業を廃止することとは釈然としない。見解は。

答 貸切バス事業の収支は、コロナ禍から回復傾向にありますが、委託業者の運転士不足による路線の引き戻しが度重なるなか、市民の身近な交通手段である路線バスのサービス維持を優先

させることが必要と考えており、交通事業経営審議会から同様の答申を受けたことを踏まえ、廃止を判断したところです。

問 市営バスの効率的な路線・ダイヤの見直しをどのように図るのか。

答 本年度に導入したバス運行データ分析システムを活用し、7年度に見込まれる実乗務員数を踏まえ、効率的、効果的なダイヤ見直しを行い、7年度から実施していきます。

問 これまでの経営計画における財政見通しと結果に対する見解は。

答 これまでの経営計画の財政見通しでは、軌道事業との合計での収支均衡を目指してきましたが、物価の高騰や人件費の増等の影響により、目標達成が厳しい状況です。

問 交通局のバス事業については、公共の福祉の観点からも交通弱者を救済できるように、(今こそ)市全体の政策として、その位置付けと目的の大転換を図る時期にきているのではないか。

答 公共交通を取り巻く環境は、深刻な運転者不足など喫緊の課題に直面しており、市内の路線バスの減便等がなされるなど、非常に厳しい状況にあることから、公共交通ビジョン協議会にお

いて、交通事業者等との協議検討を行い、地域公共交通ネットワークの再構築を進めていきたいと考えています。

また、交通局としては、市民生活を支える路線バスのサービス維持を最優先に考えた運営を行っていく考えであることを公共交通ビジョン協議会にお伝えし、考

問 本市の交通政策全体を俯瞰して今後どのようなまちを創造するのか。市長の見解は。

答 「選ばれるまち」を実現するためにも、公共交通を維持・確保していくことは、極めて重要な課題と考えています。

このため、交通事業者等と連携し、バス、タクシー、市電等、公共交通手段の総合的な対策を講じながら、地域公共交通ネットワークの再構築を進めることにより、市民の足を守る、持続可能な公共交通ネットワークの形成に取り組んでいきたいと考えています。

問 海洋散骨の実態把握についての考えは。

答 海洋散骨の事業者数や海洋散骨数の実態の把握については、現在のところ考えていませんが、国が散骨事業者向けガイドラインを策定していることから、その動向に留意していきたいと考えています。

問 野生の鳥獣の住宅地への出没原因をどのように分析しているか。

答 イノシシなどの住宅地への出没原因については、時期により山林などに餌が少なくなること、空き家等に収穫されず放置されている果樹や家庭菜園の野菜などが餌となつていることなどが考えられます。

問 野生の鳥獣による被害に対する抜本的な対策をどのように図るか。

答 野生鳥獣被害に対する対策として、鳥獣を寄せ付けない対策、進入を防止する対策、個体数を調整する対策の3つを柱に取り組んでいます。引き続き、これらの対策に取組むとともに、他都市の取り組み等について調査研究していきたいと考えています。

問 スケートボード専用施設整備の進捗状況は。

答 同施設の整備については、6年度に学識経験者や競技団体等で構成する「スケートボード等専用施設整備検討委員会」を設置し、候補地の選定を進めたほか、設置のコンセプトなどの基本構想を取りまとめたところであり、今後、パブリックコメントを実施した上で6年度中に基本構想を決定することとしています。

いつでもお気軽にご連絡ください。

☆鹿児島市議会市民連合議員団☆

〒892-0816 鹿児島市山下町11番1号

TEL・FAX 099-224-7353 内線4061・4062・4063

mail:shimin@kagoshimashigikai.com

